
[成果情報名] 紫外線除去フィルムを核とした葉ネギ害虫の減農薬防除体系

[要約] 紫外線除去フィルムとネギハモグリバエに対し効果の高い薬剤を組み合わせた防除体系は、葉ネギの主要害虫であるネギハモグリバエ、ネギアザミウマおよびチョウ目害虫に対し高い防除効果があり、薬剤散布も慣行栽培に比べ大幅に削減できる。

[キーワード] 葉ネギ、ネギハモグリバエ、紫外線除去フィルム、減農薬防除体系

[担当部署] 病害虫部・病害チーム

[連絡先] 092-924-2938

[対象作物] 野菜

[専門項目] 病害虫

[成果分類] 新技術

[背景・ねらい]

「博多万能ねぎ」に代表される葉ネギは、施設で周年栽培されているが、施設内が高温・乾燥条件となりやすいことからネギハモグリバエやネギアザミウマなどの害虫が多発し、問題となっている。特にネギハモグリバエは薬剤による防除が難しく、葉ネギの安定生産を阻害する大きな原因となっている。そこで、ネギハモグリバエを主とした害虫に対して、紫外線除去フィルムと効果の高い薬剤を組み合わせた減農薬防除体系を構築する。

(要望機関名 : 行橋農林 (H15))

[成果の内容・特徴]

- 1 . ネギハモグリバエ多発条件下においても、紫外線除去フィルムに薬剤防除を組み合わせることで、ネギハモグリバエの被害はほとんど発生しない (図 1) 。
- 2 . 本防除体系によりネギアザミウマやシロイチモジヨトウなどのチョウ目害虫の被害も低く抑制できる (図 1) 。
- 3 . 本防除体系では 6 回の防除で害虫の被害を十分に抑えており、現地慣行と比べて薬剤散布も大幅に削減できる (図 1、一部データ略) 。

[成果の活用面・留意点]

- 1 . 防除の手引きに掲載し、葉ネギ栽培における防除資料とする。
- 2 . 紫外線除去フィルムの効果は、害虫の施設内への侵入防止と施設内での分散抑制であるため、既にネギハモグリバエが発生している場合は防除により密度を一旦下げてからフィルムを導入する。
- 3 . 紫外線除去フィルムは、ネギハモグリバエやネギアザミウマが行動に利用している 360 ~ 380nm 付近の紫外線領域が除去されたものを使用する。また、紫外線除去効果の持続性については、平成19年度 (後期) 農業関係試験研究の成果を参照する。
- 4 . 紫外線除去フィルムの利用による草丈や葉色への悪影響はないが、葉身部が軟弱となる傾向があるため、かん水はやや控えめにする。

[具体的データ]

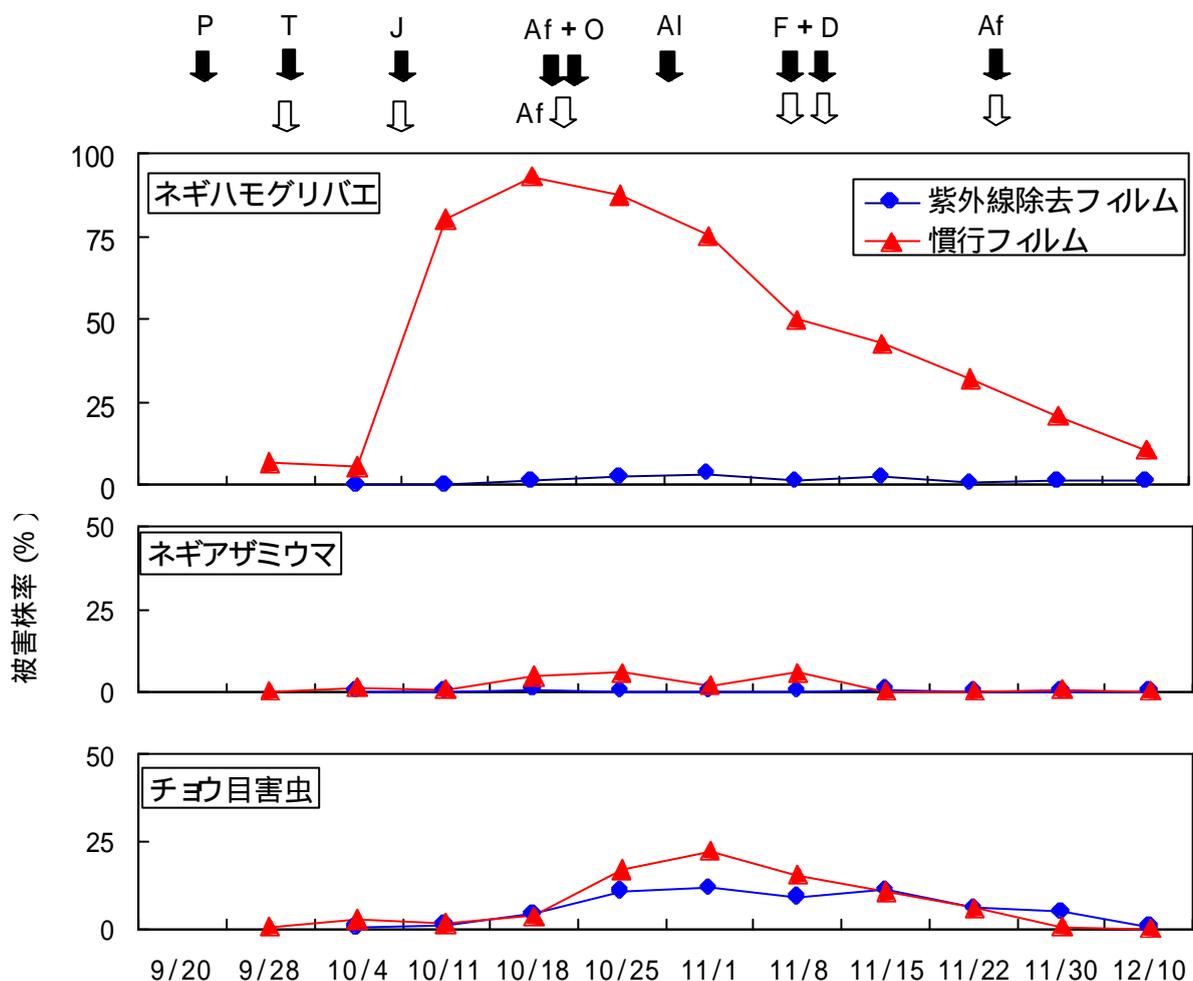


図 1 紫外線除去フィルムを核とした防除体系の葉ネギ害虫に対する防除効果 (平成 19 年)

- 注) 1 . 朝倉市現地ほ場。9 月は種、12 月収穫。
 2 . 紫外線除去フィルムは「グローマスター」(紫外線領域を 99.6%カット)、慣行フィルムは「クリンテート UFO」(紫外線領域を 46.8%カット)を使用した。
 3 . ⇩ は試験区の薬剤を、⇩ は慣行区の薬剤散布を示す。
 P:プレオフロアブル、T:トルネードフロアブル、J:ジメトエート乳剤、Af:アフアーム乳剤、O:オンコルマイクロカプセル、アルバリンスタークル顆粒水溶剤、フェニックス顆粒水和剤、D:ダントツ水溶剤
 4 . 1 区 200 株の上位 2 葉について害虫による被害を見取り調査した。

[その他]

研究課題名：天敵等を活用した葉ネギの総合的防除技術の開発
 予算区分：経常
 研究期間：平成 19 年度 (平成 17 ~ 19 年)
 研究担当者：浦 広幸、嶽本弘之